高等学校保健体育授業におけるベースボール型の学習内容に関する研究

榊　悠勝（東京学芸大学）

１．目的

本研究は、進塁の阻止という戦術的課題の解決における生徒の認識について明らかにし、ベースボール型の守備における認識的側面に関する学習内容について検討することを目的とした。

２．方法

まず、研究①として教師への意識調査を行った。

１）対象者：現職の高等学校保健体育教師 74 名
２）調査時期：4 月中旬～7 月
３）方法：「ベースボール型授業で重視して学ばせていること」（攻撃 14 項目・守備 20 項目）の質問項目について因子分析を実施。また、①攻守における因子間の比較②ベースボール型の面白さの捉えと因子との関連について一元配置分散分析を実施（統計処理は SPSS Statistics29 を使用）

次に、研究②として生徒への学習感想文分析及びインタビュー調査を実施した。

１）対象者：都内 C 高等学校 1 年生（129 名）
２）対象:全2時間の「バットレス・ボール」(鈴木,2009)の授業
３）授業者：保健体育科を専攻する大学院生（筆者）
４）分析方法:⑴感想文分析…守備で「わかったこと・できたこと」「全体共有での気づき」に関する自由記述を分析。⑵インタビュー調査…生徒 3 名を抽出し、ゲーム映像に基づくプレイ場面を振り返る形式で実施。

以上、研究①と研究②の結果及び考察をもとに、ベースボール型の守備における認識的側面に関する学習内容について検討を試みた。

３．結果と考察

【研究①】教師が捉えるベースボール型の学習内容は、攻撃が「状況に応じた打撃」「走者の状況判断」「打者（走者）の動き」「進塁を意図した動き」、守備が「打者・走者に応じた守備」「サポートの動き」「ボール操作」「高度な技能」であった。さらに、ベースボール型の攻防を面白さとする教師は「状況判断」に関する内容を重視していた。一方、ベースボール型の技能を面白さとする教師は「技能・動き」に関する内容に着目している可能性が考えられた。したがって、教師の意識からみた守備の認識的側面に関する学習内容の視点は不足していると考えられた。

【研究②】本実践における生徒の認識について検討した結果、生徒は状況把握を中心とした「プレイ開始前の確認」、ポジショニングを中心とした「プレイ開始前の意思決定」、アウトにする場所の判断を核とした「ボール保持者の意思決定」、ボール保持者への支援を視点とした「ボール不保持者の役割」について認識していた。そして、生徒の認識の中心となる内容から捉えた守備の学習内容は「状況把握」「守る場所の判断」「アウトにする場所の判断」「サポートの役割」「捕球を中心としたボール操作」であることが示唆された。

４．結論

ベースボール型における守備の認識的側面について、教師及び生徒で共通していた学習内容は「守る場所の判断」「アウトにする場所の判断」「サポートの役割」であることが明らかとなった（図１）。一方、生徒が捉えた視点に「状況把握」「自己や味方」といった内容が挙げられた。生徒は状況判断を行うためにベースボール型独自の「間」に着目していたこと、「自己」「味方」といった視点と「相手」に応じる視点を往還させることによる「最適解」に基づく守備の重要性に気づいていたと考えられる。

教師側の認識だけでなく、生徒の認識を視点として検討したことが本研究の成果であり、認識的側面への着眼の不足が窺われたベースボール型における新たな知見といえる。生徒が捉えた視点に着目した実践により、技能向上に留まらない豊かな学びが期待できるのではないだろうか。

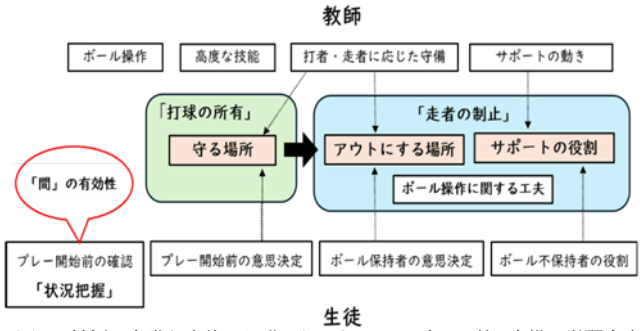

図１．教師の意識と生徒の認識からみたベースボール型の守備の学習内容

＜参考文献＞

1) 鈴木聡（2009）「戦術」学習と「種目」の学習の比較から，これからのボール運動を考える．体育科教育，57（4）：26 - 29.